

『カクキューの八丁味噌を愛した著名人』
～ 毛利 教武（もうり のりたけ） ～

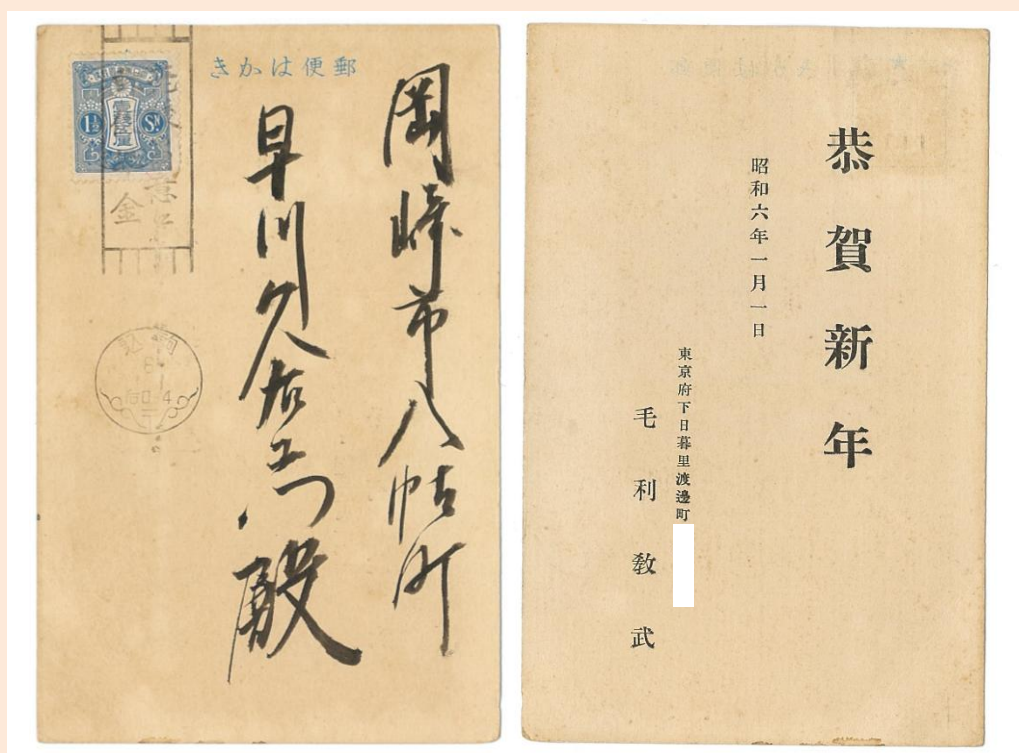
1884 年（明治 17 年）～1963 年（昭和 38 年）
東京都出身。彫刻家。

1899 年（明治 32 年）高村光雲〔彫刻家・仏師で長男の高村光太郎は彫刻家・詩人〕に師事したのち、東京美術学校彫刻科に入学しました。
若くして頭角をあらわし活躍され、日本彫刻界の先達的な作家でした。
戦災で惜しくも過去の作品のほとんどは消失しましたが、現存の代表作には「手」「クレオパトラとカルミニヨン」などがあります。

長男は日本画家、次男は彫刻家、三男は建築デザインを手掛ける美術一家として知られています。

1950 年（昭和 25 年）愛知県を中心に第 5 回国民体育大会（現・国民スポーツ大会）が開催され、岡崎公園（現・岡崎城公園）のコートでは 10 月 28 日～11 月 1 日までバレーボール競技が開催されました。会場にはシンボルとして毛利教武の「前進」という女神像が建立されました。また同時に「国体協賛 岡崎まつり」も開催されました。

当社史料室には昭和時代に毛利教武から当主 17 代早川久右エ門宛にいただいた年賀状や、毛利教武の名前が掲載された愛知社の展覧会の案内状が残っています。また、第五回バレーボール大会の広告が掲載された「国体協賛 岡崎まつり」のポスターが残されています。



毛利教武から当主宛に送られた年賀状（昭和 6 年 1 月 1 日）

肅啓 時下春暖の候愈々御清祥大慶至極に存候 陳者本
會第十一回展覽會を左記の通り會催致候に就ては會開初
日を以て招待日と相定め申候間萬障御繰合せの上御家族
御同伴御清覽の榮を賜り度此段御案内申上候 敬 具
當日御差支の節は開期中御隨意に御來觀被下度候尙其節には此狀封筒のまゝ御持參願上候

會場 名古屋市鶴舞公園内美術館
期日 五月四日ヨリ全月十日迄

昭和九年四月 日

愛知社

愛知社同人

服部有恒	富田范溪	太田一彩	渡邊正太郎	川崎小虎	加藤靜兒	加藤顯清	長野埜志	山本鼎
藤井達吉	小堀四郎	朝蔭其明	佐分義正	清水有聲	清水有聲	毛利教武	森村稻門	森田沙夷

殿

愛知社からの展覽会の案内状（昭和9年4月）

拜啓

陳者來る六月七日より九日まで名古屋市
榮町丸善支店樓上に於て愛知社同人近作展
覽會を開催可致今回は全部豫約により製作し
來れる作品のみにて遺憾ながら御賣約には應
じ兼ね候へ共其点惡しからず御了承の上何卒
萬障御繰合せの上ゆるくと御來觀の榮を得
度奉懇願候 敬具

昭和十三年六月三日

愛知社

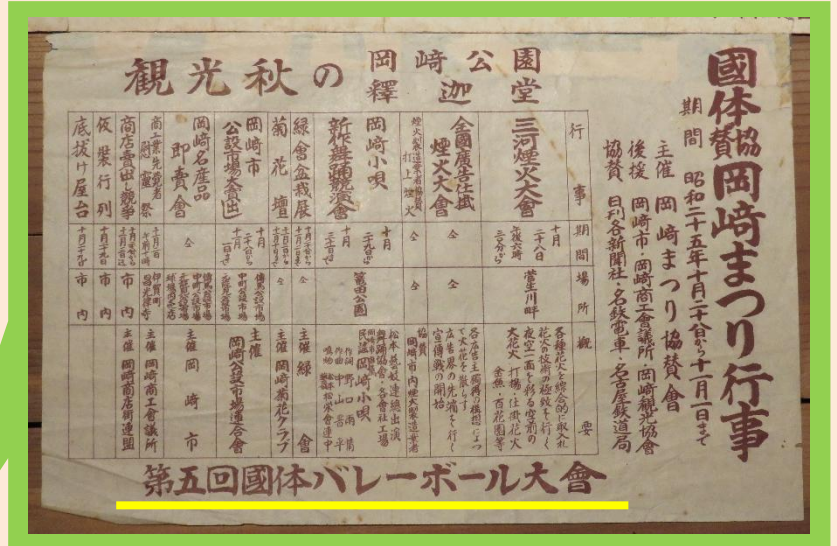
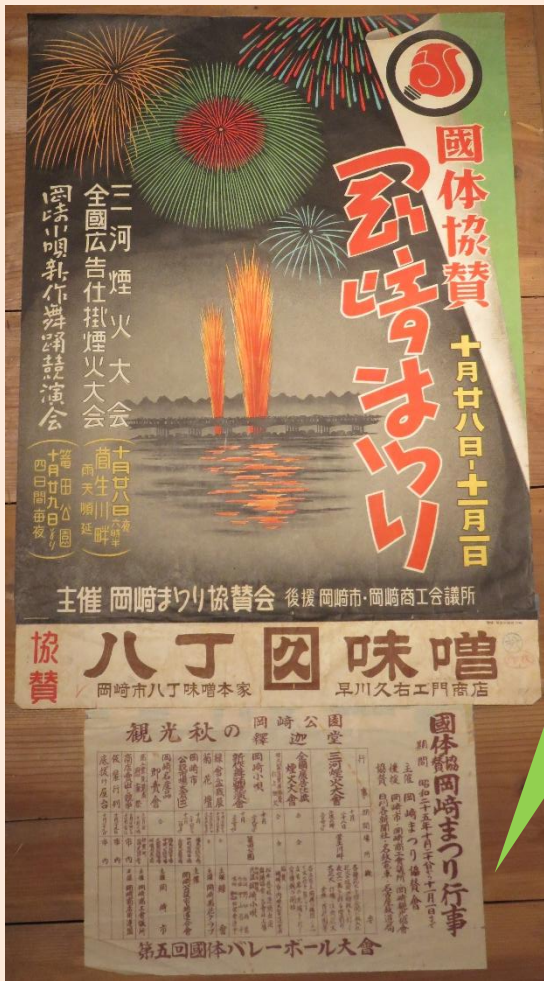
愛知社同人

（イロハ順）

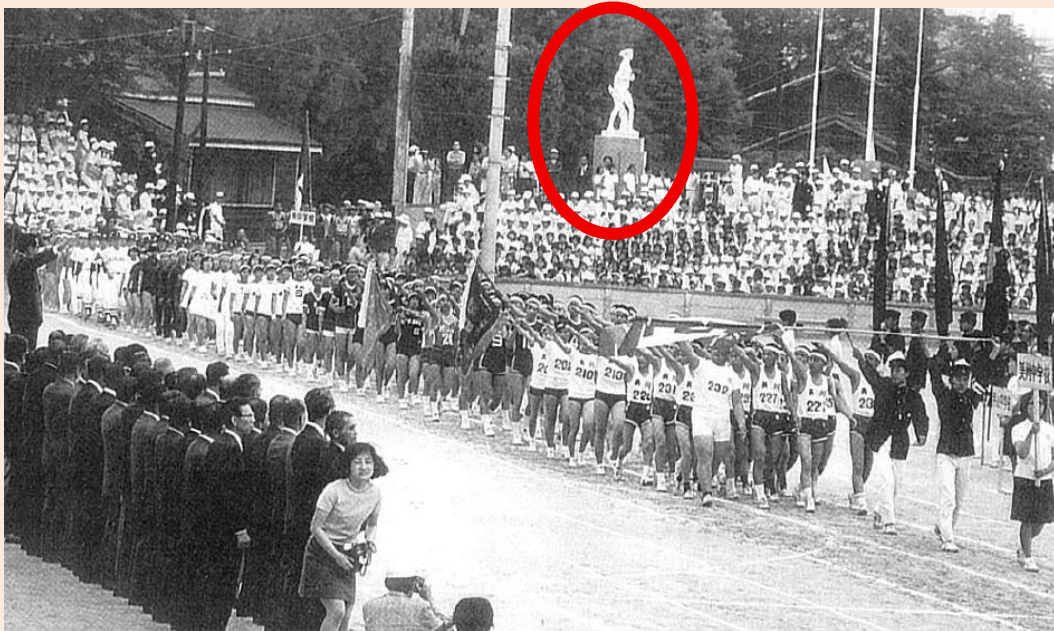
工藝部	彫塑部	西洋畫部	日本畫部
長野埜志	加藤顯清	渡邊正太郎	服部有恒
	毛利教武	山本鼎	川崎小虎
			森田沙夷
			太田一彩
			清水有聲
			森村稻門
			加藤靜兒
			水野義正
			朝蔭其明

愛知社からの展覽会の案内状（昭和13年6月3日）

<国体協賛 岡崎まつりのポスター（昭和 25 年）>



「第五回国体バレーボール大会」の広告が掲載されている



昭和 46 年に開催された第 15 回岡崎市中学校総合体育大会の様子。

グラウンドの奥に女神像が写っている。

(2011 年 10 月 28 日発行の『保存版 ふるさと岡崎』より)